

住民の安心が よるこび、 やりがいです



「東日本大震災」で、あらためて現業職場の重要性が明らかになっています。

被災した学校では、自治体職員の給食調理員や用務員が、自身の判断で避難者の受け入れや食事の提供を行いました。施設をよく把握しているからこそ、水やトイレの確保なども行うことができました。しかし、「安上がり」というだけの理由で「民間委託」された学校など、短時間や有期雇用の細切れ勤務の職員がほとんどの職場では、そうはいきません。

「地域住民のためによい仕事ができる」のも、自治体が責任を持って、市民生活に関わる公務の職場だからこそ。非正規職員ではなく、**正規職員**を。民間委託ではなく、**直営**で。もし民間委託であっても、職員には、**正社員**としてまともに生活できる**賃金労働条件の改善**が必要です。

<私たちの切実な要求>

- 知識と経験を引き継ぐ**正規職員**による**欠員補充**を
- 公的責任を放棄する**民間委託**反対、**直営の堅持**を
- **賃金引き下げ**反対、誰にも生活できる**賃金**を
- **委託労働者の待遇改善**、**公契約条例の制定**を
- **健康と安全を守る労働安全衛生対策**の確立を



被災地でボランティアを行う自治体労働者

地域に密着

現業職員は住民の生活を日々支えています

清掃職場 住民生活の安心・安全のために

資源や環境を考えた「分別収集」も、さらに、障がい者やお年寄りのお宅の「ふれあい収集」も、私たち現場の職員・労働組合が要望して、全国に広がったものです。災害時にも、道をよく知る清掃職員は大きな役割を果たします。コストをカットできると民間委託が増えましたが、ゴミの減量へ向けた事業の改善提案などは、委託業者ではできません。

給食職場 より豊かな学校・保育給食を

食は、子どもたちの心や身体の発達にたいへん重要な役割を果たします。旬の食材、地元の食材を使った美味しい給食は、学校生活の何よりの楽しみでもあります。保育園では、その日の子どもの体調に合わせた給食を提供します。そのためには、長年にわたり豊かな経験を積んだ調理員が必要です。その職員だから、災害時にも対応できるのです。

用務職場 施設のすべてに精通

用務員は、施設管理が主な仕事で、日頃から技術や手法に磨きをかけています。同時に、教職員の一員として子どもたちと生活をともにすることで、信頼関係が生まれ大きな役割を發揮しています。常に災害に備えながら、災害時には、施設管理者の一員として、率先して援護活動に携わる必要があります。限られた委託契約ではとてもできない仕事です。

公務・公共サービスの役割發揮する
現業職場をゆりまじゆり